

1. 補正式

標準単価は、東京地区（東京 17 区）における基準年月の施工単位当たりの単価であることから、地域及び時期の違いによる補正を行い、積算単価にします。

標準単価（P）から積算単価（P'）への補正は、各施工パッケージの機労材構成比を用い、下記の式により算出します。

$$\begin{aligned}
 P' = P \times & \left[\left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{Kr}{K1r + \dots + K3r} \right. \\
 & + \left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{Rr}{R1r + \dots + R4r} \\
 & + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + \dots + Z4r} + \frac{Sr}{100} \times \frac{St'}{St} \\
 & \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr - Sr}{100} \right]
 \end{aligned}$$

P'	: 積算単価（積算地区、積算年月）
P	: 標準単価（東京地区、基準年月）
Kr	: 標準単価における全機械（K1～K3、他）の構成比合計
K1r～K3r	: 標準単価における代表機械規格K1～3の構成比
K1t～K3t	: 代表機械規格K1～3の単価（東京地区、基準年月）
K1t'～K3t'	: 代表機械規格K1～3の単価（積算地区、積算年月）
Rr	: 標準単価における全労務（R1～R4、他）の構成比合計
R1r～R4r	: 標準単価における代表労務規格R1～4の構成比
R1t～R4t	: 代表労務規格R1～4の単価（東京地区、基準年月）
R1t'～R4t'	: 代表労務規格R1～4の単価（積算地区、積算年月）
Zr	: 標準単価における全材料（Z1～Z4、他）の構成比合計
Z1r～Z4r	: 標準単価における代表材料規格Z1～4の構成比
Z1t～Z4t	: 代表材料規格Z1～4の単価（東京地区、基準年月）
Z1t'～Z4t'	: 代表材料規格Z1～4の単価（積算地区、積算年月）
Sr	: 標準単価における市場単価Sの構成比
St	: 市場単価Sの所与条件における単価（東京地区、基準年月）
St'	: 市場単価Sの所与条件における単価（積算地区、積算年月）

標準単価から積算単価への補正方法は、地域及び時期の違いによる補正（下記①）に加え、下記②～⑤の補正が必要な場合があります。

- ① 地域及び時期の違いによる補正
- ② 条件区分に定めのない規格により積算する場合
- ③ 条件区分に実数入力を行い積算する場合
- ④ 時間外割増賃金や豪雪地域補正等を行う場合
- ⑤ 支給品がある場合

2. 標準単価から積算単価への計算例

①地域及び時期の違いによる補正の計算例（施工パッケージ型積算基準の条件区分に基づき積算する場合）

表層（車道・路肩部）舗装 1m ² 当たり単価表						
名称	条件区分		単位	数量	積算単価	摘要
表層 (車道・路肩部)	平均厚さ	45～55mm	m ²	1	1,687	
	平均幅員	1.4m以上				
	材料	密粒度 As20				
	瀝青材料種類	タックコート PK-4				

単価計算書					
項目	代表機材規格		構成比 (%)	東京 (H28年4月)	発注場所：千葉 (H29年10月想定単価)
機械 (K)			3.34	-	-
	K1	アスファルトフィニッシャー [ホイール型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 舗装幅 2.4～6.0m	1.81	40,100	41,100
	K2	タイヤローラー [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 8～20 t	0.50	11,000	11,400
	K3	ロードローラー [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量 10～12 t	0.50	11,900	12,400
労務 (R)			8.33	-	-
	R1	普通作業員	3.01	19,200	18,700
	R2	特殊作業員	1.72	22,000	22,200
	R3	運転手 (特殊)	1.67	21,600	22,100
	R4	土木一般世話役	0.60	23,300	22,400
材料 (Z)			88.33	-	-
	Z1	アスファルト混合物 密粒度 AS 混合物 (20)	85.57	11,300	11,500
	Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.35	91	91
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	0.35	107	86.5
	Z4		-	-	-
市場単価 (S)			0.00	-	-
	S1		-	-	-

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

標準単価 (P) 東京 (H28年4月) = 1,661.5 (円/m²)

(機械)	$\times \left\{ \left(\frac{1.81}{100} \times \frac{41,100}{40,100} + \frac{0.50}{100} \times \frac{11,400}{11,000} + \frac{0.50}{100} \times \frac{12,400}{11,900} \right) \times \frac{3.34}{1.81+0.50+0.50} \right.$
(労務)	$\left. + \left(\frac{3.01}{100} \times \frac{18,700}{19,200} + \frac{1.72}{100} \times \frac{22,200}{22,000} + \frac{1.67}{100} \times \frac{22,100}{21,600} + \frac{0.60}{100} \times \frac{22,400}{23,300} \right) \times \frac{8.33}{3.01+1.72+1.67+0.60} \right.$
(材料)	$\left. + \left(\frac{85.57}{100} \times \frac{11,500}{11,300} + \frac{2.35}{100} \times \frac{91}{91} + \frac{0.35}{100} \times \frac{86.5}{107} + \frac{0}{0} \times \frac{0}{0} \right) \times \frac{88.33}{85.57+2.35+0.35} \right.$
(市場単価)	$\left. + \left(\frac{0}{0} \times \frac{0}{0} \right) \times \frac{0}{0} \right.$
(構成比調整)	$\left. + \frac{100-3.34-8.33-88.33-0}{100} \right\} = 1,686.29664417685$

積算単価 (P') [東京 H29年10月] 1,686.29664417685 ≒ 1,687 (円/m²)

※積算単価は、有効数字4桁とし、5桁目以降を切り上げる。

② 条件区分に定めない規格により積算する場合の計算例

表層（車道・路肩部）舗装 1m ² 当たり単価表						
名称	条件区分		単位	数量	積算単価	摘要
表層 (車道・路肩部)	平均厚さ	45～55mm	m ²	1	1,536	
	平均幅員	1.4m以上				
	材料	密粒度 As20				
	瀝青材料種類	タックコート PK-4				

単価計算書					
項目	代表機労材規格		構成比 (%)	東京 (H28年4月)	発注場所：千葉 (H29年10月想定単価)
機械 (K)			3.34	-	-
	K1	アスファルトフィニッシャー [ホイール型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 舗装幅 2.4～6.0m	1.81	40,100	41,100
	K2	タイヤローラー [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 8～20 t	0.50	11,000	11,400
	K3	ロードローラー [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量 10～12 t	0.50	11,900	12,400
労務 (R)			8.33	-	-
	R1	普通作業員	3.01	19,200	18,700
	R2	特殊作業員	1.72	22,000	22,200
	R3	運転手 (特殊)	1.67	21,600	22,100
	R4	土木一般世話役	0.60	23,300	22,400
材料 (Z)			88.33	-	-
	Z1	アスファルト混合物 密粒度 AS 混合物 (20)	85.57	11,300	10,300 (再生密粒度 As20)
	Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.35	91	91
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	0.35	107	86.5
	Z4		-	-	-
市場単価 (S)			0.00	-	-
	S1		-	-	-

※機械単価、労務単価、材料単価は仮想の単価とする。

標準単価 (P) 東京 (H28年4月) = 1,661.5 (円/m²)

(機械)	$\times \left\{ \left(\frac{1.81}{100} \times \frac{41,100}{40,100} + \frac{0.50}{100} \times \frac{11,400}{11,000} + \frac{0.50}{100} \times \frac{12,400}{11,900} \right) \times \frac{3.34}{1.81+0.50+0.50} \right.$
(労務)	$\left. + \left(\frac{3.01}{100} \times \frac{18,700}{19,200} + \frac{1.72}{100} \times \frac{22,200}{22,000} + \frac{1.67}{100} \times \frac{22,100}{21,600} + \frac{0.60}{100} \times \frac{22,400}{23,300} \right) \times \frac{8.33}{3.01+1.72+1.67+0.60} \right.$
(材料)	$\left. + \left(\frac{85.57}{100} \times \frac{10,300}{11,300} + \frac{2.35}{100} \times \frac{91}{91} + \frac{0.35}{100} \times \frac{86.5}{107} + \frac{0}{0} \times \frac{0}{0} \right) \times \frac{88.33}{85.57+2.35+0.35} \right.$
(市場単価)	$\left. + \left(\frac{0}{0} \times \frac{0}{0} \right) \times \frac{0}{0} \right.$
(構成比調整)	$\left. + \frac{100-3.34-8.33-88.33-0}{100} \right\} = 1535.21218858173$

積算単価 (P') [東京 H29年10月] 1535.21218858173 ≒ 1,536 (円/m²)

※積算単価は、有効数字4桁とし、5桁目以降を切り上げる。

③ 条件区分に実数入力を行い積算する場合の計算例

1) 「基層（車道・路肩部）・中間層（車道・路肩部）・表層（車道・路肩部）」

「基層（歩道部）・中間層（歩道部）・表層（歩道部）」の場合

表層（車道・路肩部） 1 m ² 当たり単価表						
名称	条件区分		単位	数量	積算単価	摘要
表層 (車道・路肩部)	平均幅員	1.4m以上	m ²	1	2,142	
	1層当り平均 仕上り厚	実数入力 70mm				
	材料	密粒度 As20(締固め 後密度 2.35t/m ³)				
	瀝青材料種類	タックコート PK-4				

単価計算書					
項目	代表機労材規格		構成比 (%)	東京 (H28年4月)	発注場所：千葉 (H29年10月想定単価)
機械 (K)			3.57	-	-
K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 舗装幅 2.4~6.0m		1.92	41,100	41,100
K2	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量 8~20t		0.54	11,400	11,400
K3	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量 10~12t 締固め幅 2.1m		0.54	12,400	12,400
労務 (R)			8.88	-	-
R1	普通作業員		3.22	19,800	18,900
R2	特殊作業員		1.84	22,700	22,100
R3	運転手 (特殊)		1.79	22,300	21,700
R4	土木一般世話役		0.61	23,000	23,300
材料 (Z)			87.55	-	-
Z1	アスファルト混合物 密粒度 AS 混合物 (20) [標準数量] (平均仕上り厚 50mm)		84.76	(注) 540,000 50mm×10,800	(注) 756,000 70mm×10,800 円/t
Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用		2.44	91	89
Z3	軽油 1.2号 パトロール給油		0.30	89	101
Z4			-	-	-
市場単価 (S)			0.00	-	-
S1			-	-	-

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

標準単価 (P) 東京 (H28年4月) = 1,603.0 (円/m²)

$$\begin{aligned}
 & \text{(機械)} \quad \times \left\{ \left(\frac{1.92}{100} \times \frac{41,100}{41,100} + \frac{0.54}{100} \times \frac{11,400}{11,400} + \frac{0.54}{100} \times \frac{12,400}{12,400} \right) \times \frac{3.57}{1.92+0.54+0.54} \right. \\
 & \text{(労務)} \quad + \left(\frac{3.22}{100} \times \frac{18,900}{19,800} + \frac{1.84}{100} \times \frac{22,100}{22,700} + \frac{1.79}{100} \times \frac{21,700}{22,300} + \frac{0.61}{100} \times \frac{23,000}{23,000} \right) \times \frac{8.88}{3.22+1.84+1.79+0.61} \\
 & \text{(材料)} \quad + \left(\frac{84.76}{100} \times \frac{756,000}{540,000} + \frac{2.44}{100} \times \frac{89}{91} + \frac{0.30}{100} \times \frac{101}{89} \right) \times \frac{87.55}{84.76+2.44+0.30} \\
 & \text{(市場単価)} \quad + \left(\frac{0}{0} \times \frac{0}{0} \right) \times \frac{0}{0} \\
 & \text{(構成比調整)} \quad + \frac{100-3.57-8.88-87.55}{100} \Big\} = 2,141.9405387779
 \end{aligned}$$

積算単価 (P') [東京 H29年10月] 2,141.9405387779 ≒ 2,142 (円/m²)

※積算単価は、有効数字4桁とし、5桁目以降を切り上げる。

(注) アスファルト混合物の材料費 (m² 当り) は、平均仕上り厚 (mm) / 1,000 × 締固め後密度 (t/m³) × 材料単価 (円/t) × (1+ロス率) で算出するが、計算例では締固め後密度 (t/m³) を同条件としているため、簡易的に材料費を算出している。また、材料のロス分については標準単価に含まれている。

2) 「安定処理工」の場合

安定処理 1m ² 当たり単価表						
名称	条件区分		単位	数量	積算単価	摘要
安定処理	使用機種	バックホウ	m ²	1	2,290	
	施工箇所	構造物基礎				
	混合深さ	1mを超え2m以下				
	固化材 100m ² 当たり 使用量 (実数入力)	実数入力 7.00t/100m ²				

単価計算書					
項目	代表機労材規格		構成比 (%)	東京 (H28年4月)	発注場所：千葉 (H29年10月想定単価)
機械 (K)			9.14	-	-
K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 2.9t 吊 (*賃料)		7.89	9,840	9,840
K2	振動ローラ[ハンドガイド式]質量 0.8~1.1t(*賃料)		1.25	1,560	1,560
K3			-	-	-
労務 (R)			55.31	-	-
R1	土木一般世話役		15.00	23,300	22,400
R2	特殊作業員		14.12	22,000	22,200
R3	運転手 (特殊)		13.87	21,600	22,100
R4	普通作業員		12.32	19,200	18,700
材料 (Z)			35.55	-	-
Z1	セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・1トンパック [標準数量] (5.25t/100m ²)		30.69	(注)64,575 12,300×5.25	(注)86,100 12,300×7.00t/100m ²
Z2	軽油 1.2号 パトロール給油		4.86	107.0	86.5
Z3			-	-	-
Z4			-	-	-
市場単価 (S)			0.00	-	-
S1			-	-	-

※機械単価、労務単価、材料単価は仮想の単価とする。

標準単価 (P) 東京 (H28年4月) = 2,103.8 (円/m²)

(機械)	$\times \left\{ \left(\frac{7.89}{100} \times \frac{9,840}{9,840} + \frac{1.25}{100} \times \frac{1,560}{1,560} + \frac{0}{0} \times \frac{0}{0} \right) \times \frac{9.14}{7.89+1.25+0} \right.$
(労務)	$\left. + \left(\frac{15.00}{100} \times \frac{22,400}{23,300} + \frac{14.12}{100} \times \frac{22,200}{22,000} + \frac{13.87}{100} \times \frac{22,100}{21,600} + \frac{12.32}{100} \times \frac{18,700}{19,200} \right) \times \frac{55.31}{15.00+14.12+13.87+12.32} \right.$
(材料)	$\left. + \left(\frac{30.69}{100} \times \frac{86,100}{64,575} + \frac{4.86}{100} \times \frac{86.5}{107} + \frac{0}{0} \times \frac{0}{0} + \frac{0}{0} \times \frac{0}{0} \right) \times \frac{35.55}{30.69+4.86+0+0} \right.$
(市場単価)	$\left. + \left(\frac{0}{0} \times \frac{0}{0} \right) \times \frac{0}{0} \right.$
(構成比調整)	$\left. + \frac{100-9.14-55.31-35.55-0}{100} \right\} = 2,289.94579092890$

積算単価 (P') [東京 H29年10月] 2,289.94579092890 ≒ 2,290 (円/m²)

※積算単価は、有効数字4桁とし、5桁目以降を切り上げる。

(注)セメント系固化材の材料費(m²当り)は、固化材使用料(材料ロスを含む)(t/100m²)/100×材料単価(円/t)で算出するが、計算例では簡易的に材料費を算出している。また、材料のロス分については標準単価に含まれていないため、材料のロス分を含んだ実数を入力する必要がある。

④ 時間外割増賃金や豪雪補正等の補正を行う場合の計算例

(時間外割増賃金による補正の計算例) 労務費 20%割増の積算単価

表層 (車道・路肩部) 舗装 1 m ² 当たり単価表						
名称	条件区分		単位	数量	積算単価	摘要
表層 (車道・路肩部)	平均厚さ	45~55mm	m ²	1	1,714	
	平均幅員	1.4m以上				
	材料	密粒度 As20				
	瀝青材料種類	タックコート PK-4				

単価計算書					
項目	代表機材規格		構成比 (%)	東京 (H28年4月)	発注場所: 千葉 (H29年10月想定単価)
機械 (K)			3.34	-	-
	K1	アスファルトフィニッシャー [ホイール型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 舗装幅 2.4~6.0m	1.81	40,100	41,100
	K2	タイヤローラー [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 8~20 t	0.50	11,000	11,400
	K3	ロードローラー [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量 10~12 t	0.50	11,900	12,400
労務 (R)			8.33	-	-
	R1	普通作業員	3.01	19,200	18,700×1.2=22,440
	R2	特殊作業員	1.72	22,000	22,200×1.2=26,640
	R3	運転手 (特殊)	1.67	21,600	22,100×1.2=26,520
	R4	土木一般世話役	0.60	23,300	22,400×1.2=26,880
材料 (Z)			88.33	-	-
	Z1	アスファルト混合物 密粒度 AS 混合物 (20)	85.57	11,300	11,500
	Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.35	91	91
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	0.35	107	86.5
	Z4		-	-	-
市場単価 (S)			0.00	-	-
	S1		-	-	-

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

標準単価 (P) 東京 (H28年4月) = 1,661.5 (円/m²)

(機械)	$\times \left\{ \left(\frac{1.81}{100} \times \frac{41,100}{40,100} + \frac{0.50}{100} \times \frac{11,400}{11,000} + \frac{0.50}{100} \times \frac{12,400}{11,900} \right) \times \frac{3.34}{1.81+0.50+0.50} \right.$
(労務)	$\left. + \left(\frac{3.01}{100} \times \frac{22,440}{19,200} + \frac{1.72}{100} \times \frac{26,640}{22,000} + \frac{1.67}{100} \times \frac{26,520}{21,600} + \frac{0.60}{100} \times \frac{26,880}{23,300} \right) \times \frac{8.33}{3.01+1.72+1.67+0.60} \right.$
(材料)	$\left. + \left(\frac{85.57}{100} \times \frac{11,500}{11,300} + \frac{2.35}{100} \times \frac{91}{91} + \frac{0.35}{100} \times \frac{86.5}{107} + \frac{0}{0} \times \frac{0}{0} \right) \times \frac{88.33}{85.57+2.35+0.35} \right.$
(市場単価)	$\left. + \left(\frac{0}{0} \times \frac{0}{0} \right) \times \frac{0}{0} \right.$
(構成比調整)	$\left. + \frac{100-3.34-8.33-88.33-0}{100} \right\} = 1,713.79032055280$

積算単価 (P') [東京 H29年10月] 1,713.79032055280 ≒ 1,714 (円/m²)

※積算単価は、有効数字4桁とし、5桁目以降を切り上げる。

⑤ 支給品がある場合の計算例

アスファルト混合物が支給された場合の施工パッケージ単位当たりの支給品費および支給品費が控除された積算単価を算出

表層（車道・路肩部）舗装 1m ² 当たり単価表						
名称	条件区分		単位	数量	積算単価	摘要
表層 (車道・路肩部)	平均厚さ	45~55mm	m ²	1	240	
	平均幅員	1.4m以上				
	材料	密粒度 As20				
	瀝青材料種類	タックコート PK-4				

単価計算書					
項目	代表機労材規格		構成比 (%)	東京 (H28年4月)	発注場所：千葉 (H29年10月想定単価)
機械 (K)			3.34	-	-
	K1	アスファルトフィニッシャー[ホイール型・排出ガス対策型 (第2次基準値)]舗装幅 2.4~6.0m	1.81	40,100	41,100
	K2	タイヤローラー[普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)]質量 8~20 t	0.50	11,000	11,400
	K3	ロードローラー[マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)]運転質量 10~12 t	0.50	11,900	12,400
労務 (R)			8.33	-	-
	R1	普通作業員	3.01	19,200	18,700
	R2	特殊作業員	1.72	22,000	22,200
	R3	運転手 (特殊)	1.67	21,600	22,100
	R4	土木一般世話役	0.60	23,300	22,400
材料 (Z)			88.33	-	-
	Z1	アスファルト混合物 密粒度 AS 混合物 (20)	85.57	11,300	10,300 再生密粒度 As20 支給品
	Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.35	91	91
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	0.35	107	86.5
	Z4		-	-	-
市場単価 (S)			0.00	-	-
	S1		-	-	-

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

標準単価 (P) 東京 (H28年4月) = 1,661.5 (円/m²)

(機械)	$\times \left\{ \left(\frac{1.81}{100} \times \frac{41,100}{40,100} + \frac{0.50}{100} \times \frac{11,400}{11,000} + \frac{0.50}{100} \times \frac{12,400}{11,900} \right) \times \frac{3.34}{1.81+0.50+0.50} \right.$
(労務)	$\left. + \left(\frac{3.01}{100} \times \frac{18,700}{19,200} + \frac{1.72}{100} \times \frac{22,200}{22,000} + \frac{1.67}{100} \times \frac{22,100}{21,600} + \frac{0.60}{100} \times \frac{22,400}{23,300} \right) \times \frac{8.33}{3.01+1.72+1.67+0.60} \right.$
(材料)	$\left. + \left(\frac{85.57}{100} \times \frac{10,300}{11,300} + \frac{2.35}{100} \times \frac{91}{91} + \frac{0.35}{100} \times \frac{86.5}{107} + \frac{0}{0} \times \frac{0}{0} \right) \times \frac{88.33}{85.57+2.35+0.35} \right.$
(市場単価)	$\left. + \left(\frac{0}{0} \times \frac{0}{0} \right) \times \frac{0}{0} \right.$
(構成比調整)	$\left. + \frac{100-3.34-8.33-88.33-0}{100} \right\} = 1,535.21218858173$

[積算単価]

支給品費が控除された積算単価 = (端数整理なしの積算単価) - (端数調整なしの支給品費)

$$= 1,535.21218858173 - 1,295.92735973451 \doteq 239.28482884722100 \doteq 240 \text{ (円/m}^2\text{)}$$

※ 支給品費が控除された積算単価は、少数点第1位を切り上げる。

$$[\text{支給品費}] = 1,661.5 \times \frac{85.57}{100} \times \frac{10,300}{11,300} = 1,295.92735973451 \doteq 1,295 \text{ (円/m}^2\text{)}$$

※ 支給品費は1,000円以上の場合、円未満切り捨て。1,000円未満の場合は、小数位含め有効数字4桁切り捨て。ただし、小数第2位までとし、3位以下は切り捨てる。